

# 物性研に着任して

極限コヒーレント光科学研究センター 松永 隆佑

2017年7月1日付で極限コヒーレント光科学研究センターに准教授として着任いたしました。

思い返せば子供のころ好きだった教科は数学や歴史だったはずで、あと文章を書くのも好きでしたが、物理を含む理科全般はむしろ苦手な方だった記憶しかありません。その私が大学入学後すぐに自分の数学の才能のなさを思い知って、半ば逃げるように進んだのが物理の道でした。しかし大学の物理にはなかなかついていくことができず、「なぜ講義も教科書もこんなにわかりにくい説明ばかりなのか」「こんな難しい事を勉強して一体何になるのか」と思いながら、講義をさぼってサークル活動に没頭し、悶々と過ごしてばかりいました。レーザーになんとなく惹かれて光科学に関わり、大学院にも進学しましたが、当初は博士課程に進むことは全く考えられませんでした。しかし研究に長時間携わるようになって机の上の勉強からいったん離れ、実験室で自分の手を動かして作業していくことで、世界中のまだ誰も知らない自然科学の最先端に触れることができ、その結果を一つの作品のようにまとめあげて人に伝えることの楽しさを知ってからどんどん研究の面白さへのめりこんでいきました。かつて教科書を読んでもなかなか頭に入ってこなかった量子力学や統計力学の難しい概念が、研究者の実際の会話にどう組み込まれ活用されているかに直に触れるたびに少しずつ腑に落ちるようになって、全体の雰囲気や掴めるようになってから物理学への興味が本格化していったように思います。研究のために教科書を手にとって勉強するようになり、一つ一つ理解を進めて今に至りますが、振り返ってみればむしろ勉強するために研究があったのかもしれない。

今でも夜遅くや休日まで研究に時間を費やすとき、ふと「自分のこの研究テーマは本当に価値があるのか」「他の人には面白さがわからないんじゃないか」と思い返す瞬間がたびたびやってきます。頭の片隅には、学問をどこか冷めた目で見ると大学生の頃の自分がまだいるように感じます。この私の「初心」は一見すると疫病神のようにネガティブですが、この批判的な初心が私の研究を監視してくれることが、「専門家だけでなく多くの人に意義や面白さが伝わるような研究がしたい」「もっとわかりやすく表現したい」

という原動力になっている気がしています。初心忘るべからずを胸に、怠惰な学生だった過去の自分に研究の楽しさと物理学の面白さを思い知らせるような仕事をしていきたいと思います。

物理学と研究への興味という点でかなり晩成だった私のやる気を引き出して下さったのは、大学院生の頃に師事した京都大学化学研究所の金光義彦先生でした。金光先生は物性研の故塩谷繁雄先生の下で光物性を学び、学位を取得されました。当時の六本木と今の柏の違いはありますが、かつて師匠の育った物性研で私が新しく研究室を立ち上げ、研究と教育を任される立場になったことは感慨深く思います。私も物性研での研究活動を通して、物理学の基礎と研究の思考プロセスをよく学んだ学生を世に送り出し、次世代の研究者を育てていくことに貢献したいと思っています。いつか光物性の初学者向けの教科書を書くことがひとつの夢です。天才的な先人達が遺した名著の数々には及ばなくても、人一倍苦勞して物理を学んだ私だからこそ書ける教科書があるのではないかと考えています。

とはいえ現状は今後のことを考えながら四苦八苦し、研究室の立ち上げで七転八倒しながら、A棟とD棟の間で右往左往する毎日です。この短い期間の間にも色んな方々に支えられながらようやく仕事を進めています。今後ともよろしくお願い致します。